

「人間と動物の境界」は地域研究の対象たりえるか？ —アフリカとメラネシアからの発信—

企画責任者：田所聖志（東京大）

開催日時：2012年2月5日（日） 13:00-16:30

会場：京都大学野生動物研究センター

参加者：28人

趣旨：人間と動物の関わりかたは、世界各地で多様であり、その地域の特質と密接に関連している。人間と動物とが関わりあう状況と、その関係性を「境界」と呼ぶ視点からの地域研究を試みた。

メラネシアを対象とする田所聖志、アフリカを対象とする溝口大助と須田征志の3名の文化人類学者が研究発表を行い、それに対して、人類生態学者の古澤拓郎と霊長類学者の西江仁徳と足立薫がコメントを行った。

コメントと全体討論では、人間と動物の境界についての問題の広がりや地域研究のテーマとしての重要性が確認された。

発表：

田所聖志（東京大）「趣旨説明：ニューギニア地域研究の視点から」

溝口大助（東京外大）「呪いと祈りの境界を繋ぐ動物：マリ共和国南部カディオロ県セヌフォ社会における動物認識」

須田征志（名古屋大）「民族関係の境界を具現化する呪物：タンザニア・サンバ社会におけるひょうたん」

